

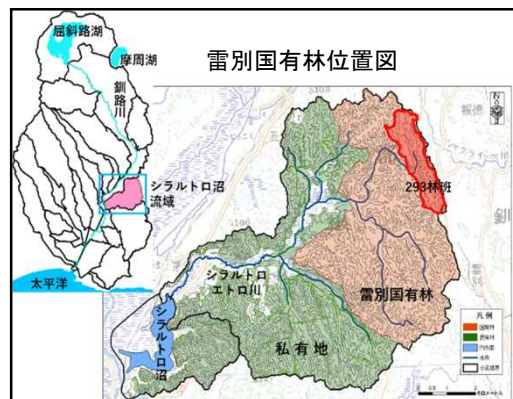
P15 雷別国有林における自然再生の取り組みについて

釧路湿原森林ふれあい推進センター 一般職員 角田 和久
上席自然再生指導官 川渕 義昭

背景

雷別国有林（標茶町雷別）は、釧路湿原源流部のシラルトロ沼の上流域に位置しており、釧路湿原の自然環境の維持・保全のうえで重要な場所です。ここには、林齢が70年を超えるトドマツの人工林が広がっていましたが、平成12年の気象害により立枯れが発生し、疎林・未立木地（笹地）となりました。

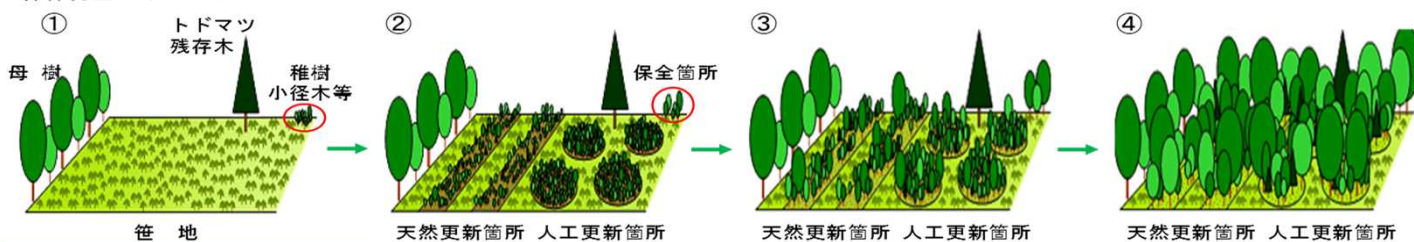
このため、当センターでは、笹地となった被害跡地の水土保持機能を高めるため、ボランティア団体や企業の社会貢献活動と協働して自然再生（森林再生）に取り組んでいますので、これまでの実施内容と今後の予定等を紹介します。



目的・取組内容

郷土樹種であるミズナラ・カシワ・ハルニレ・ヤチダモ等の広葉樹主体の森林へ再生するため、笹地となった立枯跡地の笹を除去し、森林再生に取り組んでいます。

森林再生のイメージ



令和元年度の実施内容

1 刈払い及び地がき

植栽前に人力による刈払いを実施しました。
大型機械による地がきを1.3ha実施しました。

2 人工植栽及び食害対策

ミズナラ・ハルニレ・ヤチダモ1900本を植栽するとともに、植栽木をエゾユキウサギの食害から保護するため保護管で被覆しました。



1: 大型機械による地がき後の様子 (笹地8)
2: 植栽・保護管被覆後の様子 (笹地9)

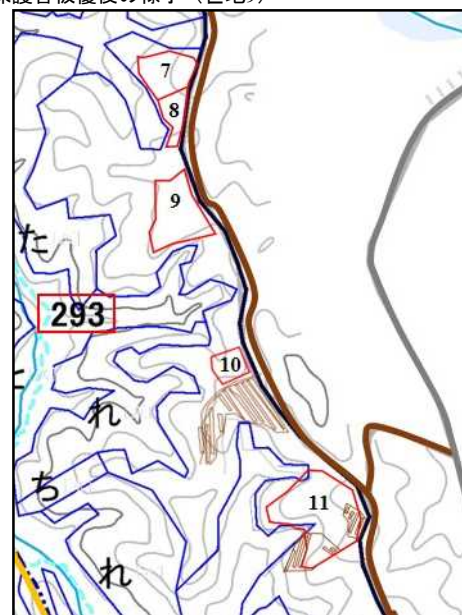
なお、平成30年6月に植栽したものは、保護管の被覆により食害や強風・寒風害から保護され、15ヶ月で60cm～190cmへ成長したのも散見しています。



3: 植栽時60cm・15ヶ月後190cmの植栽木
4: 植栽時40cm・15ヶ月後90cmの植栽木

令和2年度以降の予定

笹地7・8・10・11で、エゾユキウサギの食害に留意しつつ、ボランティア団体や地域住民等との協働により、広葉樹の植栽と保護管の被覆等に努めます。



笹地7～11位置図